

令和 6 年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	23	学 校 名	掛川特別支援学校	記 載 者	赤澤 智子
------	----	-------	----------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
ア 専 門 性	（ア）学習指導要領を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」のある授業実践を通じた実践力と専門性のレベルアップ	・「日々の児童生徒の評価を記録し、必要に合わせて指導方法を工夫しながら、個別の指導計画の目標を適切な指導により達成できた」と答える教職員 100% ・「主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善できた」と答える教職員 100% ・「児童生徒が ICT 機器を活用した」と答える教職員 100%	A	A	・学習の様々な場面で、<u>生徒ができる最大限の力を発揮できるように意識して取り組まれている</u>ことを感じます。家庭では見えなかった様々な力を着実につけていると思います。（PTA 伊藤委員） ・「専門性」…とても大事なことでと改めて思っています。「専門性が高まったか」というアンケートで教員自身が具体的にどのような力が付いたのかを問うのも振り返りや達成感につながり、有効かと思われます。（横山孝子委員） ・ICT の活用を通して深い学びを実現できている点評価できる。（河野元希委員） ・<u>単なる知識や技能の習得ではなく、深い学びを追求している姿勢が素晴らしい</u>と思います。児童・生徒さんのこれから生きる力につながるような学びの成功事例を職員や保護者と共有できると良いと思います。（大石徹委員） ・常に教職員の皆さんが向上心を持って取り組まれていることが伺えました。<u>ICT 機器は日々進化しているので今後も積極的に学び活用してほしいです</u>。同時にネットリテラシーも学ぶ事が大事だと感じています。（田辺エミ Co） ・先生方の心構えが素晴らしいです。（早川明委員）
	（イ）学校体制で取り組むカリキュラム・マネジメント12年間の年間指導計画と「いきいき学び地域と共にによりよく生きる人」を育てる授業づくり	・「12年間の系統性や学習指導要領等の内容に沿って見直した年間指導計画が作成できた」と答える教職員	A	A	・具体的な内容がよく把握できませんが、いつも上の学年がやっていることを見て、次の学年ではどんなことをやるのか、子供が把握して取り組んでいける環境はとてもよいと思います。（PTA 伊藤

	りの推進 (ウ) 心理的安全性の確保と月 45 時間以内を目指した働き方改革の推進	100% ・「働きがいとワークライフバランスの視点で業務改善できた」と答える教職員 90%	B	B	委員) ・音楽、体育の全体資料と活用方法等、とても有効だと思います。<u>他の教科等についてもできるだけ作成されれば初任者等が授業を考え易いかと思います。</u>「ふれ活」と各教科等を合わせた指導についても整理されてきましたね。 (横山孝子委員) 個々の発達の特性を踏まえて、12 年間という長いスパンで指導計画を構築している。(河野元希委員) ・年間指導計画を全職員に説明し、PDCA を意識した改善や横展開が素晴らしいと思います。100%の成果も個々の職員の努力の結果が出ていると思います。 (大石徹委員) ・<u>12 年という長い期間、先生同士の連携、引継ぎは大変だと思うが、引き続き推進していただきたいと思います。</u>(田辺エミ 氏) ・12 年間を見ることができるとは素晴らしいと思います。(早川明委員) ・<u>先生方の業務の負担が多いと感じています。</u>子供と向き合う以外の仕事がおそらく増えているのではないかと推察します。また、<u>休職される先生方も多く見受けられますので、保護者としても心配しているところです。</u>特に中学部は入れ替わりが激しく、子供も動揺していました。休職の理由は様々かと思いますが、教師という仕事が大変なことは間違いのないでしょう。保護者としては、できるだけ先生方の業務を邪魔することがないよう、一緒に子供の成長を見守っていきたいと思っていますので、協力できることがあればおっしゃっていただきたいと思います。とりあえず、PTA のスリム化が少しでも先生方の仕事を減らすことにつながればいいなと思っています。(PTA 伊藤委員)
--	---	---	---	---	---

					・働き方も多様化。<u>「チーム」を経営の柱に加え教職員への十分な説明で団結力が増すものと思われま</u>す。(横山孝子委員) ・自己評価はBとなっているが、報告を聞いている段階で問題をクリアーしていると感じた。(河野元希委員) ・働きがい・やりがいとワークライフバランスの関係は本当に難しい。(水野正幸委員) ・<u>ワークライフバランスについては早急な結果を求めず、意識改革の点で時間をかけていく必要がある</u>と思います。(大石徹委員) ・内省だけで終わらせずチームとして共有し良い環境を目指してほしいです。(田辺エミ Co) ・難しいですね。何を大切にするかです。(早川明委員)
イ 安全・安心	(ア)児童生徒が安全に安心して生活できる教育環境の整備及び事故等の未然防止への行動力と有事への対応力の向上	・管理責任者による安全点検と美化活動の実施、危険個所の迅速な整備100% ・保健、医療的ケア、給食、体育等の重大事故発生0件 ・「ヒヤリハット等の情報を環境整備や再発防止に活用した」と答える教職員100% ・マニュアルを教職員が理解し、「有事の際の動きが分かって行動できる」と答える教職員100% ・不祥事根絶。情報機器紛失0件。個人情報紛失0件。交通加害事故0件。不適正会計処理0件。	A	A	・重大事故がなかったことはとても良かったです。学校で災害用に備蓄している防災用品がいくつかあると思いますが、蓄電池や発電機など実際に動くかどうか、来年度PTAで防災課の先生方と一緒に確認できたらよいのではないかと考えています。(PTA 伊藤委員) ・児童・生徒の重大事故0が素晴らしいこと。<u>一番大切な「安全・安心」が徹底されており、教職員の意識が高いことが窺えます</u>。今さらですが、災害対策は日頃から市町との情報共有、協力体制等の連携を図っていくことが大切だと思います。(横山孝子委員) ・危機管理マニュアルが形骸化しないように、繰り返し実施している様子が伝わる。(河野元希委員) ・<u>誰もがわかるマニュアルの整備と常日頃の訓練が大切です</u>。(水野正幸委員) ・企業でもリスクマネジメントは経営課題の上位に位置づけており、全社委員会を組織化し、個々の事案について体系的にアセスメントできる体制を構築しています。また、外部専門機関の評価

					を加えることでより視野を広げて活動をしています。<u>安心安全は企業でも学校でも最も優先順位の高い実施事項です。実際の事故や災害を想定しながら、各チェック項目を深掘りし、より良い対策につなげて頂きたいと思います。</u> (大石徹委員) ・昨年度よりも達成状況が上がっており、具体的に目標に向けて取り組まれている成果が表れていると感じました。小さなヒヤリハットに気付き、それを全体で共有し改善していくことの積み重ねを今後も続けていってほしいです。(田辺エミ Co) ・安全・安心な学校づくりが最重要と思います。先生方の行動が見事です。(早川明委員) ・<u>生徒一人一人が尊重されていると感じます。</u>学年、学部を超えて多くの先生があいさつや声掛けをしてくれることで、生徒も様々な関わりを学ぶことができ、とてもよい環境だと思います。(PTA 伊藤委員) ・<u>道徳や人権教育に難しさを感じている教員がいるのであれば、研修の機会や公開授業を継続していくとよいでしょう。</u>(横山孝子委員) ・チェックリストを活用して、常に人権意識を持って対応している。(河野元希委員) ・企業でも人権に配慮したデューデリジェンスを推進しています。適切な調査と PDCA をまわすことが大切です。(大石徹委員) ・学校だけでなく、家庭や地域全体で「障害のある方の人権」について学び、共有していくことが大切だと感じます。(田辺エミ Co) ・<u>来校時、児童生徒、先生方の挨拶はいつも気持ちよく素晴らしいです。</u>(田辺エミ Co) ・教職員の立居振舞いが児童生徒たちに反映していると感じます。(早川明委員)
	(イ)教職員、児童生徒の人権意識の向上と、他者も自分も大切にす る心の醸成	・「教職員一人一人が人権に配慮した丁寧な態度や言葉遣いができた」と答える教職員 100% ・「児童生徒が、あいさつやありがとうが自分から言えた」と答える教職員 100%	A	A	

様式第5号

ウ 連 携	(ア)よりよく生きる人を目指した学校と家庭、地域・関係機関等との協働強化	・「すまいるファイル」を保護者や関係機関と共有し、面談や進路指導に活かせた」と答える教員 100% ・ニーズに応じた関係者会議や学習会を設定したり、情報共有したりして、「必要に応じて保護者や関係機関と連携して取り組んだ」と答える教職員 90% ・校内の専門家(看護師、SC)や校外の専門家(PT、OT、学校医、医ケア指導医相談員等)の活用が「有効であった」と答える教員の評価 90% ・「学校公開やHP等で学校の様子が理解できた」と答える保護者 100%	A	A	・保護者にとって、すまいるファイルの仕組みは難しく感じています。目次を用意してくれたのでわかりやすくなりましたが、教育指導計画と支援計画の違いや中身なども最初に説明文があると助かります。面談時にすまいるファイルの整理を職員が手伝ってくれたこともあり、説明を繰り返して聞くことで理解が進みました。(PTA 伊藤委員) ・<u>2, 3項目の成果目標が 90% に対して、結果は 98.4%とか 96.7%と超えて達成されているので、どの項目も 100%を目標にしてもよいのではないかと思います。</u>保護者や関係機関との連携・協働はとてもよく実践されていると思われます。(横山孝子委員) ・生徒一人一人の課題をすまいるファイルに集約して、学校・家庭・地域が共同して対応できている。(河野元希委員) ・<u>ホームページを拝見しましたが、学校の取り組みや活動が良くわかる内容でした。</u>ご担当の職員の方は、ホームページのメンテナンスが大変だと思いますが、継続的に新しい情報へアップデートして頂けると企業の採用活動の参考にもなります。(大石徹委員) ・<u>家庭、地域との連携を大切にしていきたいという学校の姿勢を強く感じています。</u>市立の学校の特別支援教育のニーズも年々高まっているので、今後も連携して行って頂きたいです。(田辺エミ Co) ・保護者、専門家等々との連携ができていることはすごく大切なことですね。(早川明委員)
-------------	--------------------------------------	--	---	---	--

様式第5号

	(イ) 地域資源(人・もの・こと)への深い理解とそれを活かした実践や発信	・「ふれあい活動を実施し、地域資源(人・もの・こと)を利用できた」と答える教職員100% ・地域の方々に向けた作品展や日頃の学習活動を公開して、「児童生徒の理解啓発につながった」と答える教職員・外部評価100% ・実施後アンケートで「相互に有効な交流活動であった」と答える本校、相手校の評価100%	A	A	・希望の丘の中での連携が特に進んでいることはとても好ましく感じています。災害時に相互の連携が取れるとよいと思います。それでもアンケートで保護者が「あまり地域と連携していない」と意見するのは、自分の居住地との連携を感じていないからではないでしょうか。(PTA 伊藤委員) ・今年も十分な成果がありましたが、コロナも落ち着いてきているので、学校開放で地域の「人」の活用推進を。<u>住民の方々から交流を通し色々な行事や技能を教わる、中・高等部は逆に地域への奉仕活動を行う等、ふれ活との連動で無理なく進められると住民の方々の学校理解が深まるものと思います。</u>(横山孝子委員) 学校の立地を踏まえて、地域との様々な交流が成果を上げている。 (河野元希委員) ・弊社の磐田事業所にも作品の展示スペースがあります。地域の高校生にも自習室として、一部フロアを貸しているので、社内だけでなく、社外にも発信ができると思います。(大石徹委員) ・今回作成して下さったふれ活実践報告が、とても分かりやすく良かったです。(田辺エミ Co) ・<u>作品展や学習活動、イベント等で明るく優しい姿を拝見いたしました。</u>(早川明委員)
--	---	--	---	---	--